

テクノロジー諮問委員会（第7回）

議事要旨

日時：2017年9月19日 8:00-9:20

場所：組織委員会虎ノ門オフィス役員会議室

議論内容（委員の主な意見）

「ITを活用したラストマイルでの暑さ対策、ゲリラ豪雨対策について」

- ・熱中症と暑さ対策とゲリラ豪雨は、方向性がそれぞれ異なる。特に熱中症は外国人にも使用していただくという言語感、ゲリラ豪雨は個人に一斉に情報を配信する特性が高い。
- ・災害、地震等を含め総合的な対策の一部と捉えると、今後レガシーとして残すような形を考えてはどうか。気象庁との連携や、入学式直後に台風が発生したときに学生向けに一斉に情報を発信する仕組みを考える等、オリンピックとして様々な組織と連携する必要がある。
- ・突発的な事態に対してどのように全体の運営をマネジメントするかも課題である。組織委員会として対処すべき事項をリストアップし、それをだれがどう対処すべきかを共通のインターフェースや体系ごとに整理しておく必要がある。
- ・何をどうリストアップするかは課題。外国からミサイルが発射される可能性も含め、想定されるリスクの可能性については検討すべき。海外の方に対する対応は特に確実に実施しなければならない。リスクコミュニケーションは一番の課題。ゲリラ豪雨等が発生する可能性は事前に伝えておかなければならない。アメリカのマクドナルドでは店員が熱いコーヒーをこぼして客に訴えられたため、それから店内に注意書きを記載するようにしたと聞いている。チケットを購入した方にプッシュで情報を出す等、まずは情報を知らせることが重要。
- ・SNSの情報を集めて気温の変更を発信するアプリは現在でも存在しているので、ゲリラ豪雨等の情報を発信する仕組みの提供は可能だと思う。電話での完全な対応は難しいので、SNSを活用する仕組みを考えることが重要。翻訳機能など情報の受け手側が難しいと感じない方法で機能を提供することも考慮すべき。
- ・暑さ対策の1つとしては、映画館のようにビューイングで参加した方が良いと考える。部屋ごとに違うスタジアムの各競技を見られて映像を提供できるような仕組みを考えてほしい。（映像のライブ配信については映像の権利保有者がいるので難しいが、イノベーション施策として、現在そのような考えも含め検討中）
- ・ライブビューイングがなくても、YouTube上に様々な動画がアップされる可能性があり、

それは防げないと思う。逆に踏み込んだ方が、後々のことを考えると良いかもしれない。会場では、VRを活用し自分が見たい場所等を拡大して見ることができたり、自分が見たい選手の情報が取得できるような仕組みを提供すれば満足感が高くなると思う。

- ・多くの人たちがシステムを作るような仕組みがあっても良いと思う。災害研究を行っている研究者を巻き込んで何か実施してはどうか。
- ・公募したアプリケーションをすべて組織委員会が採用し、それについて（セキュリティに対するリスク対策も含め）責任を持つというのは難しい。アプリケーションの一步手前のアイデアの採用のみ実施する等、うまく活用できないか。
- ・オープンデータや基礎データを開示するという方法は想定される。「組織委員会として情報を流したい」ということと「仕組みを提供したい」という2つの論点がある。
- ・App Storeのように認定され配信されるものと、それ以外に個人の力を活用するという方向にできれば良いのではないか。ラグビーワールドカップ等が今後実施されるので、結果を改善するための手段として活用するのが良い。

議論テーマ2「テクノロジーに関するメッセージまたはフィロソフィーの発信について」

「至上最もイノベティブな大会にする」ため、どのようなメッセージをテクノロジーの観点も含めて発信するか、が議論のポイント。3つの基本コンセプト（全員が自己ベスト、多様性と調和、未来への継承）を実施するための施策方針として、イノベーションとしてのメッセージを検討している。メッセージは世界中の人々を対象に考えている。

- ・メッセージを残すのであれば、日本に限定せず、世界が変わるというメッセージを残し、日本のテクノロジーの仕組みをその変革のために使えるのであれば提供すべきという姿勢が良い。日本を発信しない、ということではなく、メッセージのソフト力を発信するという観点が必要。
- ・アニメ等は世界共通事項であるため、楽しくかつワクワクするような日本のコンテンツを全世界に発信するという論点が必要。たとえばロボットと友達になる、という観点等が必要なのではないか。「テクノロジーと友達になる」という価値観は日本的であるが、そのような価値観を世界中に発信することは可能だと思う。
- ・西洋ではロボットをターミネーターとして捉えるような考え方をしがちだが、日本ではドラえもんのように親近感を持った捉え方をする点で、（西洋と日本の）価値観は異なると考えている。ホスト国の日本として世界に何ができるか、何を残せるかを考えていく必要がある。テクノロジーを前に出すことにより、多言語、道路の標識、トイレの利用状況、ゲリラ豪雨、暑さ対策等でテクノロジーを身近に体験してもらえと思う。
- ・高齢化が進む日本の中でもそのような観点やインクルージョンという観点から、大会ビジョンと実施すべき事項をマッピングし、実施すべき内容と課題を展開していくべき。

・フィロソフィーという観点では、人間とロボットの共生等、もう少しメタ化した方が良い。
日本社会のパラダイムシフトという形でソサエティを考えていくことは国の大きな課題。
オリンピックだけではなく、ポストオリンピックでどのようなものを残せるかということ
を検討することが必要。

今後の対応

・次回の開催は12月19日（火）を予定している。